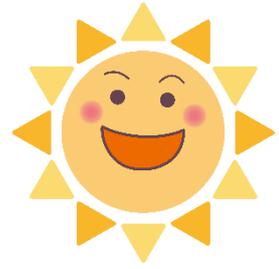


# 3 年学年通信



学校教育目標「明日も行きたい学校 会いたい友だち・先生 心待ちの授業」  
笠縫小学校 第3学年 人権参観通信 2022年11月17日（金）No.2

先月末に行いました10月28日（金）の分散参観での今回の学習のねらいや子どもたちの様子について、紹介させていただきます。

○資料名 : 「たからさがし」

○ねらい : 迷いながらも「やっぱりやめよう」と宣言した「ぼく」の気持ちを考えることから、正しいと判断したことを自信をもって行おうとする態度を養う。

○あらすじ : ぼく、まこと、りくお、かずきの4人は、休み時間に砂場で「たからさがし」を提案した。次の休み時間の本番のために、先生に借りていたスーパーボールを準備していた。すると、りょうじの机に筆箱が出ているのを見つけた。「これも砂場にうめて、ドッキリにしよう。」とまことは言った。…（中略）

ぼくはしんそうがどきどきしたが、みんなの後ろから思い切って言った。「やっぱり、やめよう。」みんなは、いっせいにぼくの方をふり返った。そんなこと言うなよという顔だ。ぼくは、続けて言った。「もりあげ方がまちがっているよ。」3人は顔を見合わせたが、「わかったよ。」と言って、筆箱をおいて出て行った。

## ★話し合ったこと

「もりあげ方がまちがっているよ。」と言ったとき、「ぼく」にはどんな思いがあったのだろう。

- ・もし自分のふでばこがすなだらけになってしまったらイヤだ。
- ・やった人はもり上がるかもしれないけどりょうじくんはうれしくないと思う。
- ・つくえに置いていただけなのによごれてしまったら悲しい気持ちになってしまう。
- ・「主役」と言われてうれしいどころか悲しくなる。わらいごとではすまされない。

## ★学習のふりかえり

- ・さいしょはいいと思っていても、ちゃんと考えてみるとことわるほうがいい時があることがわかった。本当にやっていいことなのかを考えることが大切だと思った。
- ・もしわたしの近くの人が楽しいおしゃべりをしていても、わたしはそれにつられないようにしたい。
- ・本当に起こりそうな話だと思った。でも学習したからだれかがまちがっているときにきちんと注意できると思う。
- ・「だめだ」という気持ちを言葉にして言うのは、勇気が必要だし、これからはちゃんと考えて行動しようと思った。

